

令和4年度第1回高知県児童福祉審議会ひとり親家庭部会 議事録（概要）

- 1 日 時 令和5年1月25日（水）18:00～19:20
- 2 場 所 高知県庁 正庁ホール
- 3 参加者 委員等 徳弘委員、岡谷委員、杉原委員、橋本委員、森田委員、藤枝委員、
山崎委員、公文ひとり親家庭支援センター長
事務局 子ども・福祉政策部 田村副部長
子ども家庭課 谷脇課長
〃 公文課長補佐
子育て支援課 古味チーフ
幼保支援課 宗石課長補佐
人権・男女共同参画課 本田課長補佐
生涯学習課 吉田チーフ

4 審議事項

- (1) 高知県ひとり親家庭等自立促進計画における取組実績等について
議事について、事務局から説明した後、質疑応答を行った

5 質疑応答等内容

(委員等)

「自立支援プログラム策定による就職者数」の実績は、8月末で就職者数が4人だったのが12月末で14人と、かなり伸びていると思うが、要因はあるか。

(事務局)

自立支援プログラムは、新年度に受け付けた方に加え、継続で利用されている方がおり、この継続の方が就職に結びついた数も含むため、少し数字が大きく見えている。このプログラムはひとり親家庭支援センター（以下、「センター」と記載。）で作成しており、就職や自立に向けた支援につながっている成果の現れだと捉えている。

(委員等)

アプリのログを取ることで、アプリの内容をどう充実させていくか、という点も見えてきて、とてもよかったと思う。

そこで3点伺いたい。1点目は、アプリをさらに広報していくための方策や、広報していくうえでの課題についてお聞かせ願いたい。

2点目は、当初、LINEでの相談は精神的な内容が多かったということで、非常に苦労されたと思うが、対応の仕方としては、センターで心理的なケアについてのスキルを磨きながらやっているのか。もしくは、他の相談所や命の支援センター等につなげたのか、その辺りも教えていただきたい。

3点目は、チャットボットの「悩み事から支援を探す」で、「お金」、「子ども」とあるが、「子ども」ではさらに何で悩んでいたかといったところまで解析できないか。

(事務局)

広報については、児童扶養手当の現況届送付時にチラシを同封する、研修会を利用する、市町村広報紙等を活用しているといった取組を行っている。その他、センターのホームページでの周知やセンター利用者からの口コミ、公式LINEを通じて子ども食堂の案内といった様々な情報発信をすることで、多くの方にLINEの存在を知っていただければという活動を引き続き行っていきたい。

(委員等)

そのほか、悩みを抱えるお母さんには、保健師や保育士がLINEのことを紹介するというようなことも手かもしれないと思った。保育所の負担軽減や働き方改革にもつながってくるのではないかな。

(事務局)

まだ保育園等には案内できてなかったと思うので、検討したい。

(委員等)

2つ目の心理的なケアについては、うちのスタッフにそういうスキルに長けた者がおり、そういう精神的な相談が来たら、そのスタッフから返し方についてアドバイスをもらい、返事をしている。外部につなげてるというわけではなく、センターで対応している。

(委員等)

分かった。今後たくさんあるようなら、外部に相談する、外部を紹介するというのもあるかもしれないし、センターに専門家を呼んで研修するのも重要になってくると思う。

(事務局)

3つ目の、チャットボットの「子ども」から下の階層のことについては、「教育」、「子育てについて」などに入られている方が多いということが分かっている。

(委員等)

LINEでの相談だと、夜遅い時間といった、センターの開所時間外にメッセージが届くことがあると思うが、回答は翌日になるかな。

(委員等)

翌営業日になる。

(委員等)

目標値を下回った場合、ペナルティ等はあるのかな。

(事務局)

ひとり親の計画は、日本一の長寿県構想の中の計画に位置づけているものがあり、年に1回、計画数値の見直し等を行っている。数値目標を達成していない場合は、達成するための施策の打ち込みをしっかりとやっていくように、目標が達成できるような取組を検討していくことになる。

(委員等)

子ども食堂の設置目標である120か所も達成できそうか。120という数字は達成が難しそうに思うが。

(事務局)

子ども食堂は、50人以上の小学校区の中で1つずつというところをもって、今の120という数字を出しているが、中山間の地域で、子ども食堂が存在しないところもあるため、そういった地域に開設するといった取組も目標にはないが、同時に進めてる。

そのほか、社会福祉法人をはじめ、様々な団体への働きかけや、あつたかふれあいセンターでの実施といった、新しく子ども食堂と一緒にやっていただけたところにPRしていきたいと思う。

(委員等)

このようなどとも良い取組をしているというのは勉強になった。

教えていただきたいのが、LINEで相談された方へのフォローアップをどうしているか、できているか、という点。心配なのは、自殺の問題を含め、全て広い意味の虐待等に結びつかないか、ネグレクトの可能性もあり、フォローアップがとても気になる。

(事務局)

LINE相談については、おっしゃるように、大変慎重に扱う必要があり、返し方にもとても気を使っている。現在のセンターの取組としては、LINEでのやりとりを丁寧に対応しながらも対面のほうにつなげていく、先ほど話があった、相談機関を案内するといった対応をしている。

(委員等)

延長保育と一時預かりと病児保育について、令和4年度の実施計画の中で、休日保育（地域型保育等を含む）とあるが、これは今ある保育園での休日保育ということか。

(事務局)

今、既存の保育園、保育所、認定こども園や幼稚園などで実施している部分で、かつ、補助金を利用して実施しているところを把握している。

(委員等)

今現在、休日保育（地域型保育等を含む）をやっている園はどれくらいあるか。

(事務局)

資料にあるように、3市9か所となっている。

(委員等)

認可されているのが3市9か所で、託児所や無認可の保育所はもっとあるか。

(事務局)

認可しているところで、かつ、補助金を使用しているところの数字を押さえている。

(委員等)

病児保育、病後児保育はとてもニーズが高いと思う。子がコロナやインフルエンザに罹った場合、熱が下がって2日～5日程度は園に行けなくなるが、その際、ひとり親家庭で

は誰が子を預かるかが大きな問題となる。せっかく就職してうまくいってるのに、親自身が休まないといけない精神的な辛さもあると思う。一方、こうした保育の受入数はなかなか増えてない。背景には1施設あたりの定員が少ないことが一因としてあると思うが、これを増やしていくような計画などはあるのか。

(事務局)

基本的には、保育所等は市町村の管轄になっており、そこに国と県とで補助をして運営を推進していく、というような状況。今回、病児保育が25か所から21か所に減っている。これは、居宅訪問型の事業所で複数の市町村をまたいで事業を行っていたところが、コロナ禍で資金繰り等が厳しくなり、今年度廃園、廃止という形になってしまい、その事業所分として4か所が減った。

(委員等)

病後児の保育について、ファミリーサポートセンター（以下、「ファミサポ」と記載。）のほうで特別に考えていることはないか。

(事務局)

現在、ファミサポのなかで病児・病後児の預かりを実施しているのは、四万十市と土佐清水市と仁淀川町になっている。うち、四万十市では依頼会員はいるものの、コロナの関係で制限をかけた影響で、今のところ実績はない状態。土佐清水市は、依頼会員が1人もいない状態で、仁淀川町で1件だけ実績はあったが、実施している市町村数自体が少ない状況にある。

(委員等)

コロナの扱いが2類から5類になれば、これまでと変わった対応ができそうか。

(事務局)

緩和されるのではないかと思う。

(委員等)

祖父母と一緒に同居して、子の面倒を見てもらうケースもあると思うが、だんだんそれも薄れてきていると思う。行政も含めて、地域やNPOの力も借りて、子どもの世話をする体制ができればと常々思っている。

(委員等)

それに関連して、病児保育、病後児保育の利用について、緊急度や必要度がより高いひとり親家庭に対する優遇措置や制度はないか。

(事務局)

市町村が事業をしているが、今聞いている限りではない。

(委員等)

アプリを中心として、当初、こちらで考えていたよりも順調なことがわかった。

私は保育園をやっているが、高知県と高知市が連携して、1人でも多くの方を救えるよ

うにもっと一緒にやってほしいと思うことがしばしばある。例えば、このアプリから高知市の保育幼稚園課等につながるようにする、この会議に高知市の方が参加する等の連携がとれないか。

(事務局)

センターについては、県と高知市で一緒に運営をしてるが、こういった取組を継続することで、県と市が一緒になって、県民の皆さんが同じサービス等を受けられるような取組を進めていきたいと思っている。

また、この審議会はオブザーバーとして、出席者をこちらからお願いすることもできるため、高知市にも出席いただくよう相談したいと思う。

(委員等)

県と市がさらに密接につながることは当然重要だと思うが、同じ悩みを抱えるひとり親家庭同士がつながって、情報交換できるアプリみたいな内容の開発ができないか。

(委員等)

アプリを誰かが常に管理する必要があり、難しく感じる。SNSではないが、NPO法人として、ひとり親の皆さんを実際に集めてつながりを作るイベントを、今年度、全6回開催している。